

6387 **サムコ**

辻 理 (ツジ オサム)

サムコ株式会社 代表取締役社長

## パワーデバイス市場等での生産用途拡大が成長への鍵

### ◆パワーデバイス向けが堅調に推移

当社は、2014年1月9日に東京証券取引所市場第一部銘柄の指定を受けた。2013年7月24日のJASDAQ市場から市場第二部への上場市場変更後、5カ月余りの短期間での一部指定となった。

2014年7月期第2四半期の実績は、パワーデバイス向けが堅調に推移したことにより、売上高が前年同期比12.6%増の20億32百万円となった。売上総利益は同20.8%増の9億34百万円、営業利益は同234.0%増の1億19百万円となり、原価低減等によりコスト競争力をつける努力が実ってきている。経常利益は、為替差益が前期ほど大きくなかったため、同20.0%減の1億60百万円、純利益は同14.8%減の1億2百万円となった。

装置別売上高の状況については、エッチング装置は、引き続き堅調に増加して前年同期比40.9%増となった。一方、CVD装置は、生産用途向けの減少により同51.9%減となった。

分野別売上高の状況は、オプトエレクトロニクス分野がLED向けの減少により前年同期比18.4%減となった。電子部品・MEMS分野は、順調に拡大して同164.4%増となり、特にMEMS分野において、研究開発用途から生産用途までのラインナップが完成した。また、専門部隊のMEMSプロジェクトを発足させ、国内外の主要メーカーへの売り込みに注力している。部品・メンテナンス分野は、生産機が伸びるに従って保守の需要も伸びていることから、37.1%増となった。

用途別売上高は、研究開発用が前年同期比52.9%増、生産用は同15.0%減となった。研究開発用が堅調に増加した一方、生産用は、回復基調にあるものの目標には到達していない。売上構成比は、研究開発用が同41.8%、生産用が同42.4%と拮抗している。当社の今後の成長は生産用の増加にかかっている、パワーデバイスやMEMS分野に生産機が本格的に導入されるようになると大きな成長が期待できる。

地域別売上高の状況は、国内が前年同期比24.2%増、アジアは同17.0%減、北米は同79.3%減、欧州は同1,514%増となった。海外売上比率は25.6%で、海外市場の拡大なしに当社の成長は望めないため、アジア・北米・欧州の三大市場に販路を拡大していきたい。

### ◆経常利益10億円台を目指す

2014年7月期～2016年7月期の中期経営計画では、売上高50億円の壁を乗り越え、それ以上のマーケットにチャレンジしたいと考えて計画を策定している。当社の世界市場シェアは13%である。これを15%、さらには20%と拡大していくために、ニッチマーケットをグローバルに展開していくと同時に、新規事業分野を早急に創出していく。

2014年7月期通期の業績については、売上高50億50百万円(前期比20.2%増)、売上総利益24億25百万円(同27.2%増)、営業利益6億25百万円(同82.6%増)、経常利益6億15百万円(同9.0%増)、当期純利益3億80百万円(同7.2%増)を見込んでいる。

2015年7月期は、売上高60億円、経常利益8億80百万円、2016年7月期は、売上高72億円、経常利益11

億 30 百万円を計画している。経常利益 10 億円台を早期に確保することが最大の目標である。

売上高についても、中国を中心に LED 向けが回復しているオプトエレクトロニクス分野、および順調に拡大している電子部品・MEMS 分野が、事業の二本柱となって増収に寄与し、その他の分野も伸びていって、これらの総和として目標を達成できるものと考えている。

### ◆成長に向け重点課題に取り組む

目標達成のための重点課題として、①重点マーケットに対する生産機事業の強化、②海外三大市場の深耕・開拓、③新事業の創造と収益化、④国内外での製品、サービス品質の向上、⑤グローバル人材の育成を掲げ、これらに取り組んでいく。

生産機事業の強化については、パワーデバイス、MEMS、電子部品等を重点マーケットと位置付けて、集中的に営業リソースを投入していく。すでに、社内に MEMS プロジェクトを発足させた。デモ機およびデモルームの準備も整っている。また、これに従事させるため、ハイレベルな技術者の採用も積極的に進めている。

重点マーケットのうち、パワーデバイスについては、シリコンカーバイド(SiC)と窒化ガリウム(GaN)が、優れた、魅力的な材料であることから、市場拡大の期待が大きい。SiC と GaN は、従来のシリコンに比べて、耐圧が非常に高く、またスイッチング速度も速い。SiC パワーデバイスはすでに新幹線に使用されている。GaN パワーデバイスも実用化が始まろうとしている。LED 市場には大きな成長が見込めないことから、パワーデバイスにウエイトを移している。パワーデバイス市場は、さまざまな乗り物、家電、工場のモーター駆動、太陽電池のパワーコンディショナー等、広域に拡大していくことが期待でき、ここに注力していきたい。SiC パワーデバイス向け新製品として、2013 年 10 月に生産用ドライエッチング装置の販売を開始している。2012 年に投入した同シリーズの装置は「半導体オブ・ザ・イヤー2013」を受賞した。

MEMS については、すでに大きな市場を形成しているので、MEMS プロジェクトを推進し、ボッシュプロセスを使ったドライエッチング装置を売り込んでいく。

電子部品は、スマートフォン等の SAW フィルター向けで大きな実績を持っており、引き続き注力して市場拡大に努めていく。

海外展開については、アジア、北米、欧州の三大市場の深耕・開拓に注力し、特にアジアと欧州において積極的に市場を拡大していく。欧州は、まだほとんど手付かずの状態であるため、販売・サービス拠点を開設する。2014 年 4 月にリヒテンシュタインの洗浄装置メーカーUCP 社を買収し、ここを欧州の拠点としていく予定である。アジアでは、インドおよび東南アジアを成長が期待できる分野と位置付け、2014 年 3 月に新設された海外営業 3 部が専任で注力し市場を拡大していく。北米は、シリコンバレーのオプトフィルムズ研究所を中核として、MEMS の医療分野への研究開発を拡大していく。シリコンバレーにおいて医療やバイオの企業の増加が著しいため、現地の企業との連携を積極的に行いながら次のニーズを開拓していきたい。

新事業の創造と収益化については、当社のキーテクノロジーである薄膜技術について、半導体以外の分野への拡大や周辺技術の取り込みを推進している。まだ大きな収益を生むまでには至っていないが、医療、バイオ等の分野からの引合いが増えてきている。

製品・サービス品質の向上として、生産技術部の人員増強、原価低減、装置の完成度の向上により製品の品質向上を目指す。また、国内の営業体制を見直し、重点顧客のニーズを的確に把握する組織的かつ機動的な営業力を強化するとともに、更なる発展が期待できる地域への営業を強化していく。

また、グローバル人材の育成として、世界各国から外国籍社員を積極的に採用し海外展開に活用していく。日本人社員についても、海外拠点への派遣や外国語研修により育成を強化する。

## ◆ 質 疑 応 答 ◆

**TSVの需要が伸びていないとのことであるが、どこにボトルネックがあるのか。**

シリコンの既存設備が使えないため、費用対効果の面から投資を躊躇している企業もある。また、国内市場においては、メモリーデバイスで3次元化を実現しても競争には勝てない。したがって、マーケットとしては、中国、台湾あるいは韓国を考えている。しかも、当社が狙うマーケットは、異種混合プロセスで、ウエハーサイズは8インチでデバイス構造の異なるものを集積化することによりワンチップ化しようとする分野である。この市場は、ニッチの中のニッチといえるほど小さいので、さほど伸びないと考えている。

**2014年1月および2月の受注動向を教えてください。**

生産用途向けの予算化や、見積もり、引合いが進みつつあるので、それが徐々に当社の受注に入ってくる。生産機の場合は単価が1~1億50百万円であるので、数台の受注でも売上に大きく寄与してくる。ここでの動きがかなり加速してきているので、生産機については非常に期待できると考えている。海外では、中国においてLED向けの受注が少しずつ入ってきている。

**スマートフォン向けのポテンシャルが高く、2~3年後には大口の受注があるとの見方でよいのか。**

スマートフォン向けについては、2~3年は相当期待できると考えて注力している。ただ、その中身は少しずつ変化していて、材料面、加工面ともに、いろいろと進化をしているので、それにしっかりと対応していく必要がある。

**スマートフォン向けの受注水準については、一気に増えるイメージなのか、なだらかに上昇していくイメージなのか。**

波があると考えている。スマートフォンメーカー間の競争が激しいため、受注の動きが急で、突然に発注されることもある。その読みが非常に難しいが、当社としては、部品メーカーの対応に合わせて動いていく必要がある。受注は、増えるときには一気に増えるイメージである。

**世界市場シェア1~3位の動きについて教えてください。**

当社以外では、SPTS、オックスフォード、アルバック等がメインプレイヤーである。当社は二番手であるが、他社と大きな差はなく、各社とも10~20%のところで拮抗している。当社はそこでトップを目指して国際競争力をつけていき、欧州に攻め込んでいこうと考えている。

(平成26年3月13日・東京)